

令和4年(2022年)度 地域連携活動報告書

連携先名称：福島県浪江町

協定締結日：平成31年(2019年)1月31日

活動状況：継続中

連携先窓口：浪江町役場 企画財政課政策推進班 大谷純 様

活動資金：補助金

担当教員(所属)：菅原 優(自然資源経営学科)

活動体制(単位)：大学

関連教員(所属)：高畑 健(農学科)、入江彰昭(地域創成科学科)、
山本祐司(農芸化学科)、井形雅代(アグリビジネス学科)、
范 為仁(自然資源経営学科)、上岡美保(国際食農科学科)

活動目的：

東日本大震災・原子力災害からの復興を目指す福島県浪江町では更なる移住・定住などの人材定着が課題であり、本活動を通じてインターンシップ型の教育研究プログラムを実施し、地域企業等との連携による各種の戦略的プロジェクトを展開し、農村地域全体の活性化に取り組むことを目的としている。

活動内容・成果：

事業の2年目となる2022年度、現地での活動としては、「一般農業実習体験コース(福島舞台ファーム(株)の圃場による「浪江復興米」の田植え、収穫、試食等)」、「特別実習プロジェクトコース(ペピーノ、玉ねぎ、ニンニク、花き、里山景観樹木支援)」、「特別インターンコース(松本農園、荒川園芸、なみえ星降る農園、イチジク生産組合)」を実施し、オンラインでの活動としては「復興浪江学」、「新規就農実践講座」を実施することができた。とくに特別インターンでは、現地の農業者・企業経営者との懇談会を実施することで交流を深め、充実したプログラムとすることができた。

また、プログラムに参加する学生の自発的な活動として学生プロジェクト(なみえ知ってもらい隊)が立ち上がり、現地活動以外にも学内での活動拠点を形成することができた。

成果としては、第1に人材育成の観点からは、現地活動とオンラインによる体系的なインターンシップ型の教育研究プログラムを本学の大学生に対して実施

し、現地活動の実人数として 172 名の学生が活動を行い、将来的な浪江町への交流人口・関係人口として期待できる「復興支援サポーター」は 32 名輩出することができた。

第 2 に地域活性化の観点からは、商品開発につながる活動として、「特別インターンコース」でイチジクを活用した学生の商品提案が行われ、今後の活動により期待が持てる内容となった。

課題・改善点：

- ・第 1 に、2022 年度実施した実習、町民の声、学生の声の成果を反映し、浪江町で実施した講座（座学）と実習のバランスを考慮し、現地活動・実習の時間をさらに有効的に確保できるようプログラムを設計する。また、できるだけ実習を集約化し、一つ一つの内容の成果をわかりやすくする。

- ・第 2 に、2022 年度は学術研究員を 1 名採用してプロジェクトを運営し、現地の浪江町役場との連絡調整、プログラムを受講する学生の連絡調整を担っていた。しかしながら、より円滑なプロジェクトの運営に向けて現地で駐在できる人材を 2023 年度に確保したかったが、適任者がおらず、事務補助員 1 名（3 日／週）を確保するに留まった。そこで(株)農大サポートとの業務委託契約も行いながら運営体制を整備している。